

表2 コレステロール値の心疾患に対する相対危険度  
対象集団の選び方と加齢の影響、および企業支援グループによる異常な数値の公表

年 齢 グループ	オックスフォードPSC研究 (61報のメタ分析) 40-89歳 11.6百万 人・年	米国MRFIT 35-57歳 8百万 人・年	米国フラミンガム研究 31-65歳 0.13百万 人・年	オーストラリア研究 20-95歳 2.2百万 人・年	
				男	女
30代		4.9	1.6	1.3	1.02
40代	14.7	3.9	1.5		
50代	6.26	3.1	1.1	1.2	1.07
		2.8			
		2.1	1.2		
60代	3.28	2.19	1.2	1.1	0.70
70代	2.37				
80代	2.19				
対象者と 文献	一般集団と記載(不明) Prospective Studies Collaboration, 2007				

オックスフォードPSC研究は桁違いにスケールの大きい研究であるが、原報の多くが入手困難であること、年齢・人種など非常に多様な集団の結果をまとめていると思われること、一般集団としては異常に大きな相対危険度となっていること、企業支援による研究ユニットであることなどから、解析対象として適切ではなく、長寿GLには含めなかった。

他の3報告は典型的なものであり、日本にも対応するデータがある(年齢の影響を除いて)。

MRFIT研究の対象者は、高TC値などで選抜された集団であり、NIPPON DATA80の結果は、これに近い。